

地理学専攻

Graduate School of Humanities / Major in Geography

募集人員：修士課程 15名／博士後期課程 2名 | 開講形態：**夜間開講** | キャンパス：市ヶ谷
主な進路：教育関連(教員)やコンサル分野など

自然と人間活動の相互作用で起こる現象を科学的に解明。

自然地理と人文地理の2本柱でカリキュラムを構成しています。その幅広く複合的な領域をバランス良くカバーする教育体制が整っています。

地理学は地域の科学、あるいは空間の科学ともいわれます。地理学という地域(空間)とは、身近なミクロの範囲から、国・大陸・地球規模と、さまざまな規模を含んでいます。地球規模の環境問題に直面する現代、現場のフィールドワークをもとに、地表付近で起こる時空間的分布現象にアプローチする地理学は、社会的にもその重要性を増しています。

本専攻では、学生は自然地理・人文地理のどちらかに重心を置きつつ、個別の研究テーマを設けて研究を進めます。養成する人材は、地理学研究者、中学・高校教員、社会に貢献する人材などです。また、社会人入試制度により現職の教員や有識者の再学習にも力を注いでいます。

アドミッション・ポリシー

(学生の受け入れ方針)

地理学を専門的に学び、教育界・官公庁・企業などで活躍したいと考える人材を幅広く受け入れる。また、専門性の高い学習をしたいと考える社会人に対して門戸を広くするため、社会人入試制度を実施している。また、現在、「学部3年+修士2年」の5年制(ただし法政大学文学部地理学科からの進学者対象)を導入していることで、専門性の高い研究職への就職を目指す学部生も積極的に受け入れていく方針を貫いている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

修士1年次では広く専門的基礎学力を高める。2年次では修士論文の作成を中心に据えた教育を行う。また、1年次・2年次を通じて現地研究を実施し、専門性の高い野外での調査方法を習得する。博士後期課程では、博士号を取得するためにゼミ形式の教育を展開する。またその途中段階では、修士の在学生在も交えた討論の場を多く設け、質疑応答の能力を鍛える。さらに、海外での発表も視野に入れ、英語で口頭発表ができるスキルも養成する。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

修士の学位は、専門性と幅広い学識を身に付け、修士論文を作成することで得られる。本専攻では、修士論文は学会で口頭発表し、学術雑誌に掲載することが求められる。課程博士の学位を得るには、高い専門性と独創性を身に付け、学会誌への投稿を前提とした論文を2編以上作成することが求められる。論文博士は学術雑誌に掲載された論文3編以上が必要である。また、社会的な評価を示す別刷、本などの提示を求める。さらに公開発表会で学内外による評価を受ける。

研究室紹介 | 固体地球表層環境の形成プロセスを理解する

前杵教授 | 固体地球表層環境の形成過程および変動に関する自然地理学的研究

私が担当している「地形学研究室」では、固体地球の表層という地球規模の概念を意識し、その上で時間・空間的な地理学的思考に基づいて、地形の形成過程、変動過程などについて、物質、地形形成作用、および10万～数千年オーダーの環境変動を考慮しながら明らかにする研究に取り組んでいます。基本文献の講読や研究論文の紹介、地形図や空中写真の判読、地形測量や表層地質観察などの現地調査力の修得という点に力を入れて指導しています。

※本専攻には自然地理学および人文地理学のさまざまな分野の研究室があります。



Voice



修士課程 2014年度修了
山家 卓美

ゼミ形式の講義はもちろん、少人数で学べるので専門性の高い知識を得ることができます

私の研究

大型店の出店規制の強化とその現象の現れ方は、三大都市圏・地方都市だけではなく、都市規模によっても異なることから、東京大都市圏を対象としてまちづくり三法の一つである改正都市計画法に注目し、改正前後の立地状況の比較を行いました。今後の課題は、業態別ごとに地域との人口の比較を行い、法改正以外の新たな立地動向の要因を探り、より総合的に研究を深めていきたいと考えています。

大学院の魅力

大学院での講義はゼミ方式のため、どの講義においても専門的に学ぶことができます。インプット・アウトプットしやすい環境だと思います。専任教員の指導はもとより兼任講師の講義が豊富なため、修士論文のテーマ設定をする上での確かな意見をいただきやすく、真摯に研究に取り組むことができました。そして、何より少人数で学べることで、専門性の高い知識を修得できる場だと思います。

〔研究テーマ〕東京大都市圏における大規模小売店舗の立地動向 ～横浜市を中心として～

専任教員と担当科目 (2016年度) ※年度により授業を持たない場合があります。 専 専門領域 研 研究テーマ 担 担当科目

伊藤 達也 教授 専 経済地理学、資源・環境研究
研 水資源研究、環境問題研究、地域経済・地域社会研究
担 人文地理学研究Ⅰ/Ⅱ 人文地理学演習Ⅰ/Ⅱ 人文地理学文献講読Ⅰ/Ⅱ

佐藤 典人 教授 専 自然地理学(気候学)、NZ地域研究
研 大気地理学および大気環境に関する自然現象の時間・空間的分布の研究
担 気候学研究Ⅰ/Ⅱ 気候学演習Ⅰ/Ⅱ

前杵 英明 教授 専 自然地理学、地形学、第四紀学
研 地殻変動および環境変動に関する地形・地質学的研究
担 地形学研究Ⅰ/Ⅱ 地形学演習Ⅰ/Ⅱ 自然地理学文献講読Ⅰ/Ⅱ

小原 文明 准教授 専 都市地理学、都市開発論
研 都市開発の空間的・社会的意義、土地所有から見た都市形成・変容
担 社会経済地理学研究Ⅰ/Ⅱ 社会経済地理学演習Ⅰ/Ⅱ

※中島弘一教授、吉田智教授は指導教員になることはできません。

米家 志乃布 教授 専 歴史地理学、日本北方・ロシア地域研究
研 蝦夷地・北海道の歴史地理学、シベリア・極東の地図史研究
担 ※今年度は、特定の科目を担当しません

中島 弘一 教授 専 分析化学
研 光と分子の相互作用
担 自然地理学総合演習Ⅰ

吉田 智 教授 専 原子核物理学
研 平均場理論による原子核構造の研究
担 ※今年度は、特定の科目を担当しません



設置科目 (2016年度) ※開講科目は年度により異なります。()内は単位数

<修士課程>

- 地形学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 地形学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 気候学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 気候学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 水文学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 環境科学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 第四紀学Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 自然地理学文献講読Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 自然地理学総合演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 自然地理学特殊講義Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 人文地理学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 人文地理学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 社会経済地理学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 社会経済地理学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 文化地理学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 文化地理学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 地域社会論研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 空間構成論研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 歴史地理学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 歴史地理学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 人文地理学文献講読Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 人文地理学総合演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 人文地理学特殊講義Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 地理学現地研究Ⅰ/Ⅱ(各1)

<博士後期課程>

- 地図学特殊講義Ⅰ/Ⅱ
- 地図学演習Ⅰ/Ⅱ
- 自然地理学特殊講義Ⅰ/Ⅱ
- 自然地理学演習Ⅰ/Ⅱ
- 地域論特殊講義Ⅰ/Ⅱ
- 人文地理学特殊講義Ⅰ/Ⅱ
- 人文地理学演習Ⅰ/Ⅱ

修了生の研究テーマ

- 参詣団体の属性と参詣行動による大雄山信仰圏の地域区分
- 多摩川水系・湯殿川における流域開発と降雨流出の変化
- 葬儀における時間的・空間的接近性
- 京浜地域外縁部における開発型中小企業の展開 -八王子市を事例として-
- 東京大都市圏における大規模小売店舗の立地動向 -横浜市を中心として-